

日本ユニシス 明治安田損害保険の保険金支払ワークフローシステムを稼働開始

～ 保険金支払い業務手順の大幅刷新、迅速・適切な保険金支払い、事務の効率化を実現。
開発効率を高めるため、基盤として Image Flow Foundation®を採用 ～

日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：黒川 茂、以下 日本ユニシス）は、明治安田損害保険株式会社（本社：東京都千代田区、社長：遠藤 宏歳 氏、以下 明治安田損害保険）と、お客さまへの迅速・適正な保険金支払い、事務の効率化を目的として、「保険金支払ワークフローシステム」を 2014年6月30日より稼働開始しました。

新システムの導入により、明治安田損害保険は、従来の紙と手入力ベースの事務手順を大幅に刷新し、事故受付から支払決裁までの保険金支払事務フローを、パソコン画面の一連の操作でシームレスに完結することが可能となりました。

明治安田損害保険は、業界最先端のシステムインフラ技術を導入することにより、保険金支払業務にかかわる事務品質をさらに向上し、経営方針である「お客さまを大切にする会社」の実現に引き続き取り組んでいきます。

「保険金支払ワークフローシステム」の特徴は以下のとおりです。

1. 請求書類の電子データ化

事故連絡票、請求書などの書類を受け付けた時点でスキャニング、OCR 読取りし、支払査定に必要な請求データをシステムに登録。また、登録されたご請求データは事務担当者が画面上でダブルチェックを実施し、迅速性かつ正確性の向上とペーパーレス化を実現しました。

2. 支払査定事務のシステム化

請求データや基幹ホストシステムに登録済みの契約情報など、支払査定に必要な各種データを新システムで一元的に管理することにより、従来、事務担当者が実施していた請求書類の点検事務や転記事務をシステム化。これにより、請求書類の不備対応や簡易な請求案件の査定自動化など、事務の品質向上と効率化を実現しました。

3. 工程管理のシステム化

「事故受付→請求書送付→支払査定→決裁」までの一連の保険金支払事務工程をワークフローで管理し、請求案件の進捗状況や事務担当者の処理状況が見える化することにより、お客さまのお問い合わせへの迅速な対応、担当者単位の事務量の把握が容易になるなど、適切かつ効果的な事務態勢を構築しました。

明治安田損害保険は、開発にあたり、システム基盤として日本ユニシスの「Image Flow Foundation」^(注)を採用することにより開発効率を高め、また日本ユニシスの提供する各種知財を活用することで、短期間での業務機能の実装を実現しました。

日本ユニシスは、今回のプロジェクトにおける経験とノウハウをもとに、保険業界を中心に積極的にイメージワークフローシステムを提供していきます。

以上

注 : Image Flow Foundation (イメージ フロー ファウンデーション)

イメージワークフローシステムを構築するために必要となる機能を備えた専用の基盤です。

1. 柔軟性のあるワークフローを実装するための基盤機能
2. イメージ管理のための基本機能およびイメージ取込・出力機能を標準装備
3. 開発の高生産性を担保するための共通部品（システム部品、業務部品）を多数内蔵

上記の基盤と部品を組み合わせることにより、業務要件に合致したシステムを、短工期にコストパフォーマンスを確保して実装することが可能となります。

※関連 URL :

「イメージワークフローシステム基盤 Image Flow Foundation」

<http://www.unisys.co.jp/solution/imageflowfoundation/>

※Image Flow Foundation は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。